

94. 光の襖

1010920001 榛澤雛子
指導教員 市川尚紀 准教授

1. コンセプト

現代の社会は高齢化が進んでおり、今回の制作はそれに貢献できるようなものを作りたいと考えた。探していたところ東広島の古民家には使われていない建具があった。その建具を有効活用できないだろうかと考え光の襖を作ることにした。

襖とは、和室の仕切りに使う建具の1つである。木製の枠組み両面に紙または布を張ったもの。「襖障子」または「唐紙障子」と呼ばれることもある。また、「ふすま障子」が考案されたはじめは御所の神殿の寝所の間仕切りとして使用されはじめた。寝所は「衾所（ふすまどころ）」と言われた。それは、「衾」は従来「ふとん、寝具」の意味だからである。

ステンドグラスとは、外部からの透過光で見えるものである。なので、夜になると室内の内側から見る限りその色は鮮やかに写らない。しかし、逆に夜外側から見た場合、室内が明るく、プライバシーが確保される設置位置だとステンドグラスの光を見ることができる。また、透過光には癒し効果があるとされており生理的にも好ましいということで光色による治療法もある。

2. 襖

2.1 素材

本制作では、南側の和室を寝室・休憩室として使うため、押し入れに使用していた襖を和室南面縁側に面した建具として再生させる。また、光を通すステンドグラスを使用する。

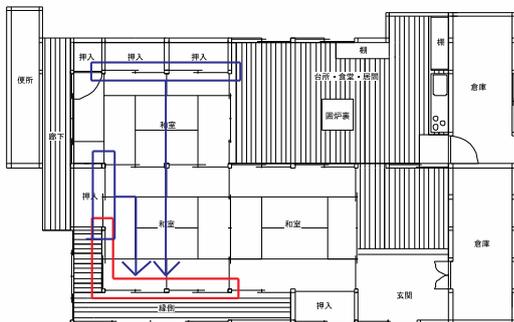


図 1 古民家平面図



写真 1 建具

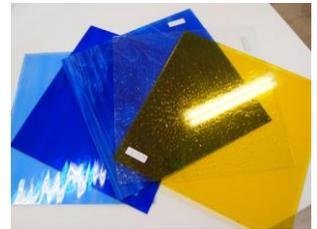


写真 2 ステンドグラス

2.2 文様の意味

日本の伝統的な文様をステンドグラスのデザインにした時、和の空間の古民家と洋のステンドグラスがどのようなデザインだったら合うのかと考えた。それは、日本の家屋と文様が合うということは分かっていたので、日本の文様の良さを再確認したかったからである。



写真 3 和の文様

2.3 形、位置

現在の古民家には光を遮る建具がなく、光を解放させすぎている。光を解放させすぎているは通した光を楽しむことができない。したがって、光をしぼるためプライバシーを確保するためにこの形にした。また、廊下に面している窓の下半分がすりガラスになっており、夜に外から古民家を見ると部屋からの光をステンドグラスを通して見ることができるのでこの位置にした。

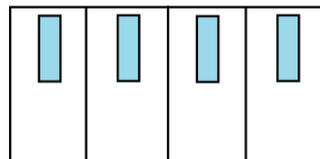


図 2 ステンドグラスの位置



写真 4 すりガラス

2.4 引き戸

引き戸の襖にステンドグラスを取り付けることで、引き戸を引いたときにステンドグラスとステンドグラスを重ねることができる。ステンドグラスは普通教会堂や西洋館の窓の装飾に用いられているので、重なったステンドグラスを見ることができる。

また、引き戸はバリアフリーとしても活用されている。引き戸のメリットは出入りが楽で、面積が有効活用できる所にある。他にも、引き戸なら開け放っておいても、風に煽られて閉まることがないので安全だからである。高齢化が進んでいる現代なのでドアを引き戸にリフォームが多いと思い、古民家だけでなく一般の住宅でも親しまれるような引き戸を作りたいと考えた。



写真7 襖の前に置いた照明

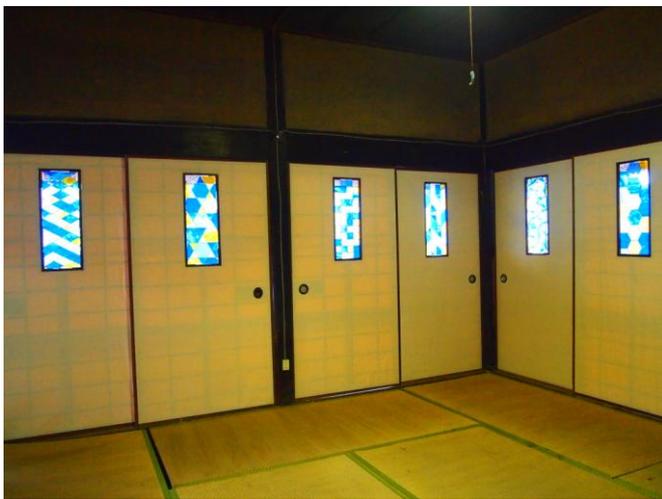


写真5 光の襖

3. 照明

3.1 コンセプト

襖に使ったステンドグラスの廃材を利用して照明を作れないか考えた。また、襖紙に照明の文様が写ることによって光の襖の完成度をあげたかったためこの制作をはじめた。

3.2 素材

光の襖に使ったステンドグラスの廃材を利用した。



写真6 ステンドグラス廃材

3.3 デザイン

襖と同じ日本の伝統的な文様を取り入れたデザインにした。襖の前で照明を使うことによってステンドグラスの光を通した文様が襖紙に写るようにしたかったからである。



写真8 照明

4. まとめ

バリアフリーが進んでいる現代においてでただドアを引き戸に変えるだけではなく、引き戸を1つのインテリアとして楽しんでもらうことができるだろう。

本来捨てられるはずだった古民家の建具に手を加えることで再生させ、これからも使えるようになった。

また、建具とステンドグラスの組み合わせにより、ステンドグラスを通す光を楽しむことができ、古民家で寝室・休憩所として使うときには、プライバシーを守ることにもできる。さらに、ステンドグラスのデザインを和の文様にしたことで、日本の家屋と相性が良いことが分かり、日本の文様の良さを再確認することができた。

この制作をきっかけに光を楽しむことを生活の一部にしてくれたらと思う。